

## 第一支部

### 第一支部報告

#### ア. 浦和区健康まつり

(ア) 日 時：平成 27 年 11 月 1 日 (日) 10:00～

(イ) 場 所：コミュニーレ浦和

(ウ) 出席者：14 人

(エ) 参加内容：骨密度測定と放射線医療画像展

(オ) 測定者：560 人



第一支部浦和区健康まつりスタッフ

## 第二支部

### 平成 27 年度 事業を終えて

所沢ハートセンター 柴 俊幸

去る平成 27 年 9 月 12 日（土）、心臓 CT セミナーとして始まり、継続的に開催させていただいている循環器 CT セミナー 2015 が開催されました。連休を挟む業務的にもプライベート的にも忙しい土曜日の連休の最中、193 人という多数の方にご参加いただき盛会とできたこと、厚くお礼申し上げます。

毎年のことながら内容は盛りだくさんで、文章にするととても収まりきれないほど充実した内容でありました。これもひとえに埼玉県という垣根を越えた熱心な広域の実行委員、講師の先生方、機器展示・運営にご協力いただいたメーカーさまのご協力の賜物であります。

初開催では「心臓 CT」とうたっておりましたが、領域を広げようということで第 2 回からは「循環器 CT」と名称・内容をマイナーチェンジさせていただきました。本セミナーの特徴としては県外からの参加者が多いことも挙げられますが、臨床的にすぐに施設で活用できる知識・技術を持ち帰れる内容だ、というお声を頂くことがあります。心臓・冠動脈 CT 含めた循環器領域は、CT 装置の発展により簡便な撮影が可能になってはいるものの、臨床医の期待する画像を提供するにはややマニアックなテクニックが必要なことがあります。しかし、臨床医からすれば、それなりのスペックを有する CT であれば他の学会で見たような画像が提供できるものと考えていることが多いように感じます。そんな期待に「うちでは無理です」と言わず「やれるだけやってみます！」と伝え、行動することが信頼関係の構築に結び付き、循環器内科施設の技師としては、そのような技術を発信していくことが重要だと思っております。幸いにも本セミナーにご協力いただいている技師さんは、みなさん知識・技術を十分に持っており、それ以上の熱意や信頼できる人間性を持った方ばかりです。

このような方達と仕事をしていくことで、モチベーション・スキルアップしていけることが技師として何よりの幸せに感じます。

さて、話は変わりますが、平成 27 年 11 月 21 日～23 日に国立京都国際会館にて行われた第 31 回日本診療放射線技師学術大会に、読影ブースの係として参加させていただきました。読影コーナーはメインホールから少し離れ、機器展示や示説発表のあるアネックスホールに配置されていました。開場前は「この場所で気付いてくれるかな」「どれくらいの人が足を止めてくれるか」などと思っていましたが、そんな不安もよそに、結果的には約 120 人という多数の方にご参加いただきました。配置的には離れのホールではあったものの、希望のセッションを聞き終え、機器展示を見に来た方や示説発表を終えた方がブース内を覗きに来ていただけたようで休む時間がほぼないほどの盛況ぶりとなりました。

純粹に力試しに来る方、技師仲間・先輩後輩同士で受けてくれる方、システムに興味を持ち話を聞いてくださる方、昨年から継続して受けていただいた方、中には学生の参加者もあり、興味深く臨床画像を見て、解説を聞いてくれたことはとても感慨深いものでした。また会期中は埼玉だけでなく、他県の知り合いの技師さんも顔を出してくれたり、実際に読影をしていただいたり、お手伝いという立場ながら貴重な時間を過ごさせていただきました。

まだ未定ではありますが、ご好評をいただいたことでこのような読影コーナーが今後も継続的に設けられるのではと期待しています。埼玉県の皆さまにはぜひ一度足を運んでいただき、また「うちにはこんな

症例があるよ！」というものがあればぜひコンテンツとして参考にさせていただきたく、ご連絡いただければ幸いです。

(写真は循環器 CT セミナー 2015 の仲間たちと…)



## 平成 27 年度 第 4 回勉強会座長集約 ① 「Non Helical Volume Scan が開く、4 次元の世界」

社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院  
千葉 雅恭

第 4 回埼玉県診療放射線技師会第二支部の勉強会では、東芝社製 CT 装置に関するメーカー講演を行った。内容は、Aquilion ONE の代名詞ともいえる Volume Scan での画像提示と最近話題となっている最新機能の金属アーチファクト除去アプリケーション：SEMAR (Single Energy Metal Artifact Reduction) に関してであった。Helical Scan による心臓 CT は、撮影時に心拍変動の影響で位相のズレが生じるとバンディングアーチファクトが出現し、画像作成時に不均一の部分が生じてしまう。しかし、次世代検出器である AD-CT (Area DetectorCT) の Volume Scan は z 軸方向に最大 16cm 幅の検出器を備えているため、寝台を移動せずに撮影することができる。そのため急な心拍の変動にも位相がズレることはないため、前記のアーチファクトを生じることなく良好な画像が得られる。さらに撮影時間が短いことから、息止め不良の患者にも有用であるといえる。また 16cm 幅の撮影範囲は頭部 3DCTA や頭部 Perfusion でも寝台移動をせずに検査を行うことができるため、頭蓋内の血行動態も容易に観察が可能である。今後の活躍の場としては、整形領域における四肢の関節面を可動させて 4D 撮影にも期待されている。使用例として、足関節や膝関節の 4D 画像が挙げられたものの実際使用報告はあまりなく、これからの臨床の報告が期待される。

SEMAR は、他社の金属アーチファクト除去アプリケーションと比較しても良好な画像が得られると話題となっており、現在もさまざまな領域での活躍に期待されている。整形領域の人工骨頭や椎体スクリーナーをはじめ、脳外科領域の脳動脈クリップやコイル塞栓術、外科では腹部コイル塞栓術と広い範囲に渡り使用が可能となっている。初期の SEMAR では Volume Scan のみの使用と制限があり、臨床では使用しづらい部分もあったが、最新の SEMAR は Helical Scan に対応したため幅広く臨床に用いることが可能となった。

今回のセッションは 15 分と限られた時間ではあったが会場からの質問も盛り上がり、多くの技師が今後も東芝 CT に期待をしていると感じた。もちろん私も東芝 CT ユーザーとして期待を高める技師の 1 人である。

## 平成 27 年度 第 4 回勉強会 座長集約 ②

防衛医科大学校病院 野瀬 英雄

平成 27 年度第 4 回勉強会の整形セッション、一般撮影の発表では、上尾中央総合病院の内田瑛基氏に「教科書に載っていない実戦撮影のコツと X 線所見のとり方 ～踵骨編～」について発表していただきました。

発表内容は、まず踵骨の解剖についての解説からはじまり、外傷時の踵骨骨折の Grade 分類法、踵骨側面像では、Bohler Angle や Gissane Angle を用いた骨折の評価方法について教えていただきました。そして踵骨軸位と側面、アントンセン氏 I、II 法の撮影について、個々に基本的な撮影方法と撮影時の工夫をお話していただきました。

踵骨軸位では、足底の角度と管球入射角度の違いで撮影後の踵骨の描出範囲は大きく異なります。適切な軸位入射角度を知るためには、軸位撮影を行う前に側面撮影を実施し、側面像から軸位の入射角度を確認することも有効な手段であるということ。そして踵を床に付けることが困難な患者さんには、側臥位で撮影すると患者さんへの負担が軽減できるという内容でした。

アントンセン氏法の撮影は、撮影体位が複雑で体位保持が難しく、距踵関節溝を再現性よく描出するためには、安定した体位での撮影が重要となります。安定した体位で撮影するためには、補助具を積極的に用いる必要があります。補助具を用いることによって短時間で撮影することができ、技師間のバラツキも改善できると述べられた。

また実際の臨床では、創外固定や術後のプレート、スクリューなどによって、患者さんの撮影体位はかなり制限されます。適切な体位選びが良い踵骨撮影を行う上で基本となり、さらに撮影順序や補助具を利用するなど、撮影体位を工夫することによって再現性の高い踵骨撮影ができると強調されていました。

踵骨撮影は、ポータブル撮影や手術室での撮影など、患者さんの状態や患者さんの体位の制限によって、教科書通りの撮影ができない場面で撮影しなければならないことがよくあります。特に、アントンセン氏法の撮影は角度が複雑な上、教科書に載っている体位以外の方法で撮影することを要求されます。このような場合に備えて、日ごろからさまざまな体位で撮影することができるように訓練しておくことが重要であるといえます。

## 平成 27 年度 第 4 回勉強会座長集約 ③

越谷市立病院 関根 貢

平成 27 年度第二支部第 4 回勉強会として、一般撮影、CT、MRI の三つのモダリティーからなる整形外科領域のセッションが行われた。

私が座長を務めさせていただいた CT モダリティーでは、彩の国東大宮メディカルセンター 田上陽菜氏による『整形外科領域の X 線 CT の標準化』という演題名であった。

使用している CT 装置は GE 社製 RevolutionGSI で、IR (ASiR) や Veo も搭載しているということであった。

この発表は、上肢（肩、肘、手関節）を中心としたポジショニングや撮影条件による画質に影響を与える因子、ポジショニングから正確な MPR 作成までの標準化（マニュアル）についての内容であった。

CT においても一般撮影同様、患者のポジショニングが重要である。当然、アーチファクトが無い画像や骨折線などを描出するので高分解能が要求されるが、患者に苦痛を与えない安定したポジショニングが最優先である。肘関節以遠を撮影する場合、上肢は体幹部同一断面より外し、CT ガントリー面（X-Y 面）に対し垂直な位置の方がアーチファクト低減の観点からは望ましいが、痛みが強い場合や高齢で体の関節が固く伸展できない場合は不可能である。スライドでも腹臥位、上肢挙上が不可能な場合の代替案がいくつか提示されていた。

また会場からは、上肢各部位撮影時の設定プロトコルの根拠（回転時間や view 数など）についての質問があった。ファントムの視覚評価も重要であるが、view 数や MTF の特性を理解するには物理評価も加えていただくと会場もより理解しやすかったのではないかと考える。

GE 社製の CT 装置は view 数が高い撮影モードが搭載されているので、制限が無い限り、状況に合わせて使用すべきである。

MPR の標準化はとても重要であり、どの診療放射線技師が撮影しても提出画像と臨床医の求める画像が統一化されるためである。田上氏の施設では各部位ごとに MPR の切り出し方、PACS への転送画像（方向、画像表示順など）においてのマニュアルが整備されているということであった。

今回は基礎的な検討であったが、今後は Veo の運用やその画質評価などをしてさらなる画質改善、被ばく低減を追求していただきたい。

最後に、この発表内容を聴講した施設が今一度、自施設の整形外科領域の MPR 作成の標準化やマニュアルの整備などの一助となることを期待する。

## 平成 27 年度 第 4 回勉強会座長集約 ④ 「整形セッション 上肢 MRI の基礎」

トワーム小江戸病院 菅野 勝

平成 27 年度第 4 回勉強会 整形セッション MRI 演題では、草加市立病院 放射線科 佐藤広崇氏に発表していただきました。

発表は、受信コイル・各部位の撮像・応用編と分かれており、基礎から症例、撮像時のポイントなど日常業務で MRI 検査担当ではない方でもとても分かりやすい内容となっていました。

受信コイルでは、整形領域で主に使用されるコイルを用いて位置や向き、それに伴った感度領域や特性などを提示していただき、コイル選択の際、自施設の受信コイルの特性の違いを理解することの重要性を解説していただきました。その中で、コイル選択時において Parallel Imaging の使用が可能かという点をポイントとして挙げられていました。

各部位の撮像では、肩関節・肘関節・手関節を取り上げ、肩関節撮像では肩関節特有のポジショニングでの artifact 低減の検討や撮像シーケンスによる artifact 対策の検討、検査説明の重要性や専用コイル以外での撮像の検討の報告をしていただきました。

肘関節では、ポジショニング例や観察部位の違いによる撮像条件の選択を、症例の提示と共に解説していただき、手関節ではポジショニング例と TFCC 損傷を例に解説いただきました。その中で、肘関節・手関節両部位でのオプションとして T2\* Volume 撮像の有用性の報告がありました。

応用編では、トラクトグラフィーによる神経の描出・cine 画像による動きの評価・DWI ADC による筋肉の評価の解説をしていただき、神経の描出については定量評価などに課題は残るものの fusion による応用が期待できるという報告を、動きの評価については FIESTA シーケンスを用い動態評価を行い、具体例として肘関節での後方インピンジメント評価の有用性を解説していただきました。筋肉の評価については DWI ADC を用い肩関節腱板の付加時の筋活動評価における有用性、筋電図と比較して低侵襲での利点の報告をしていただきました。

上肢領域を含め、整形領域での MRI 撮像では特にポジショニングが大きく画像に影響し、また同様に患者の理解と協力も重要となります。コイル特性を理解し、状況により使い分けを行うことで、ポジショニングの負担軽減を図り、しっかりとした説明を行うことでより良い検査を行えると考えます。今後、今回の発表のように盛んに各施設での検討や報告が続けられることを期待します。

## 平成 27 年度 第 5 回勉強会 特別セッション座長集約 ①

済生会川口総合病院  
志藤 正和

「CT-AEC の基礎と応用技術～ハイスpek CT ユーザーから見た今までとこれから～」と題したテーマで主要 4 メーカーである PHILIPS、SIEMENS、東芝、GE（発表順）の CT を使用している 4 施設の演者に基礎から臨床応用までお話いただいた。

PHILIPS ユーザーであるさいたま赤十字病院の渡部伸樹氏からは日本国内における医療施設間の撮影線量のバラツキが大きい現状から CT-AEC の重要性を指摘いただき、大まかな概要と PHILIPS の AEC である D-DOM (XY 変調)、Z-DOM (Z 変調) の臨床適用について説明いただいた。

SIEMENS ユーザーである埼玉県済生会川口総合病院の豊田奈規氏からは SIEMENS の AEC である CARE Dose 4D の概要、人体等価ファントムを用いた正面スカウトと側面スカウトにおける AEC の挙動について説明いただいた。さらに Organ Dose Modulation である XCARE を用い、放射線感受性の高い臓器の吸収線量を低減する必要性について CTDI ファントムによる CTDI 値を用いて説明いただいた。

東芝ユーザーである埼玉石心会病院の伊藤寿哉氏からは東芝の AEC である Volume EC の概要、Variable Helical pitch (心電図同期 / Pitch Factor / 設定 SD) を適切に設定することで Total DLP の減少に寄与することが可能であることを説明いただいた。

GE ユーザーである済生会栗橋病院の内海将人氏からは GE の AEC である Auto mA (Z 変調)、Smart mA (XYZ 変調) の概要、楕円ファントムを用いた正面スカウトと側面スカウトにおける AEC の挙動について説明いただいた。逐次近似応用再構成法 ASiR 併用を前提とした AEC である % Dose Reduction を用いた積極的な被ばく低減についても解説いただいた。

豊田氏と内海氏に発表いただいた中で正面スカウトと側面スカウトでは AEC の挙動が異なる旨の報告があったが、いずれも側面スカウトを用いて撮影すると管電流が低下し SD 劣化をきたすとのことであった。画質の再現性を考慮すると、設定 mAs、Noise index に補正を掛ける必要があると考えるため、ぜひ追加検討をお願いしたい。

今回、勉強会に参加された方々においても自施設で現状使用している CT-AEC の特性や設定値の再確認・見直しを図る良いきっかけになったのではないかと考える。今回の内容を通じて、適正な撮影プロトコル構築の一助となることを期待したい。



## 平成27年度 第5回勉強会 特別セッション座長集約 ②

所沢ハートセンター 柴 俊幸

平成27年10月22日に行われた第5回勉強会にて、一般演題セッション内の済生会川口総合病院 森一也氏による「FPDにおける幾何学的不鋭が画像に及ぼす影響」および特別セッション「CT-AECの基礎と応用技術」の座長を務めさせていただきました。

森氏は私も参加させていただいた昨年度の埼玉県診療放射線技師会主催のDRセミナーの講師もされており、その熱心な姿勢を拝見し、第二支部での一般撮影モダリティーの研究発表として講演を依頼させていただきました。一般撮影は診療放射線技師にとって入口でありながらとても奥深いモダリティーであり、近年のシステムの進化によりDR系の評価も必要不可欠になってきていると考える。今回の発表では演題名の通り、被写体-検出器間距離による幾何学的不鋭影響が画質に及ぼす影響について検討が行われた。半影は拡大率により変化するため関節変換方式FPDシステムにてタングステン測定用エッジ、PMMAファントムを用い、拡大率を変化させMTF、NPS、DQEの測定が行われている。幾何学的不鋭は鮮鋭度に、距離は粒状性に影響を生じおり、またDQEより幾何学的な不鋭は高周波数領域において影響を与えると考察された。

一般撮影の不鋭は動態不鋭と幾何学的不鋭の総和により生じ、動態不鋭とは呼吸や拍動により生じるため、ポジショニングや患者説明、もしくは短時間撮影を行うことで、あまり経験がなくとも「(なるべく)止めて撮影」すれば影響を軽減できることは直感的に感じると思う。しかし、幾何学的不鋭に関しては学生時代に講義を受けたとはいえ、画像上どのような影響を与えるのか意識して評価を行うことはあまりされていないように感じる。今回の検討では、被写体-検出器間距離を0~1.5mまで測定を行っているが視覚的に認識できる不鋭は0.3mmとされており、一般的な臨床的で行う撮影での拡大率ではほぼ影響のないものと考えられる。しかし、救急時などで標準的な体位が困難であったり、固定具があった場合の撮影においては、今回の検討結果を有しての撮影や画像評価を行うことで放射線科内および臨床医への説得力が大きく異なると考えられる。疑問に思ったことは文献検索をし、それでも分からなければ自身の施設でできる限り検討を行う。そして自分の疑問は他の人も疑問に感じていると思ひ、外に発信していくことの大切さを改めて感じた発表であった。

特別セッション「CT-AECの基礎と応用技術」では埼玉県内のハイスペックCTを使用してる施設にご協力いただき、タイトルの通り基礎と応用技術についてご講演頂いた。「AECなんて当たり前のよう使ってるよ」「すでに色んな学会で検討されてるのでは…?」という声も上がりそうではあるが、私の周りの施設では未だAECについて理解があまり深くなかったり、設定の方法が分からない、細かなソフトウェアについてはメーカーアプリなどから説明を受けていない、という意見も聞こえ、支部開催という近い距離での勉強会に参加してもらい質疑応答をしてもらおうことや、まず勉強会に足を運んでもらえるようにと企画した。もちろんライトユーザー以外にも情報を持ち帰ってもらいたく、ハイスペックユーザーであり、発表や講演経験のある方に講演をお願いした。入職以来東芝CTユーザーであった自分は事前打ち合わせの時点から知らないことが多く、今回のセッションを通して学ばせてもらうことが多々あった。講演内容や今後の課題については共同座長を務めていただいた志藤氏のご指摘の通りであるが、これらも今

回のセッションのためにあらためてメーカーアプリに問い合わせたり、実験を行って検討・考察を行ったために生まれたものであった。当たり前には搭載されているソフトウェアを当たり前で使うだけでなく、小さな疑問に対しての検討が興味深い結果を生むことがあり、さらに検討を行うことでメーカーや周囲の技師仲間との信頼関係を作ることでもできると感じた。

今後も第二支部では熱心な技師への講演をお願いしたいが、小さな夢としては全ての講師を第二支部で行えるような知識・技術を持った技師の育成と、信頼関係を築いていきたい。そのために年6回開催のうちの1度でも良いのでぜひ勉強会に足を運んでいただきたい。またその際には仲のいい後輩や同僚、先輩を誘っていただければと思う。第二支部という小さい地域ではあるが埼玉県内で信頼出来る技師が集まる、地域になればと思う。

今回、座長としての執筆であったが、少々第二支部役員としての希望と期待を込めた内容となってしまうことはご了承いただき、座長集約とさせていただきます。

## 第三支部



第三支部理事 渡部 進一

謹啓

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は格別なご高配を賜り、まことに有難く厚くお礼申し上げます。

本年も、より一層のご支援を賜りますよう、地区役委員一同心よりお願い申し上げます。

敬具

第三支部では昨年度、ウエスタ川越での健康まつり、勉強会や第二・三・四・六支部合同勉強会など、新たな試みを行いました。企画に関しては地区会員の皆さまから貴重なご意見をいただき改善することは行い、今後の取り組みへ反映していきたいと考えております。今年目標は第三支部のホームページを開設することであり、皆さまにより多くの情報が発信できればと考えています。

また今年3月には勉強会・定期総会がございますので多くの皆さまにご参加をしていただき、ご意見を頂戴できればと思います。

### 【報告事項】

#### (1) リレー・フォー・ライフ in 川越

- ア. 開催日時：平成27年9月19日（土）～20日（日）
- イ. 開催会場：川越市水上公園
- ウ. 協力者数：46人（第三地区会員）
- エ. 内 容：リレー・フォー・ライフにボランティア協力

#### (2) 第三地区ボウリング大会

- ア. 開催日時：平成27年10月2日（金）19：00～21：00
- イ. 開催会場：川越ボウリングセンター
- ウ. 参加人数：34人
- エ. 内 容：会員の親睦を深める



ボウリング大会の様子

(3) 第3回 3地区役員会

- ア. 開催日時：平成27年10月2日（金）21:00～21:30
- イ. 開催会場：川越ボウリングセンター内 会議室
- ウ. 参加人数：6人
- エ. 内 容：ボウリング大会反省会、支部合同勉強会、健康まつりについて

(4) 第29回 川越市健康まつり

- ア. 開催日時：平成27年11月1日（日）10:00～15:00
- イ. 開催会場：川越駅西口 ウェスタ川越 多目的ホール
- ウ. 参加人数：10人（地区会員含む）
- エ. 来場者数：医療画像展 350人
- オ. 内 容：医療画像展の開催



川越市健康まつり スタッフ



説明風景

(5) 第二・三・四・六支部合同勉強会

- ア. 開催日時：平成27年11月14日（土）14:00～
- イ. 開催会場：ホテルヘリテージ四季の湯温泉
- ウ. 参加人数：105人
- エ. 内 容：支部合同症例検討会、講演、懇親会



総合司会を務める山村氏



第三支部の演者：高橋氏

## 第四支部

### 第 10 回深谷市福祉健康まつり 参加報告

第四支部 萩原・齋藤

平成 27 年 10 月 25 日（日）深谷市総合体育館（深谷ビッグタートル）にて、「つなげよう ふかやの福祉と健康 次の 10 年へ」をテーマに、第 10 回深谷市福祉健康まつりが行われました。県内社会福祉施設、関係福祉団体、医療団体など 78 団体およびアトラクション参加団体 25 団体が参加し、お子さんから高齢者まで、幅広い世代の方々と賑わいを見せました。

埼玉県診療放射線技師会第四支部では、公益活動の一環として毎年参加をしています。「あなたのための医療画像展」として「パネル展示」「骨密度測定」「子供のためのスーパーボールすくい」「コンカミノルタ 血中酸素濃度 (SpO<sub>2</sub>) 測定」「コンカミノルタ ワークステーション展示」を企画しました。今回の来場者数は過去最高の約 500 人を記録しました。また多くの放射線に関する質問を頂き、市民の関心の高さが伺えました。

これからもこのような活動を通じてわれわれ診療放射線技師の職種・役割を知っていただき、多くの方々の健康維持のお手伝いできればと思います。

最後に実行委員の方、ご協力いただいたメーカーの方、大変お疲れさまでした。



第 10 回深谷市福祉健康まつり実行委員

会員名	施設名	会員名	施設名
齋藤 幸夫	深谷赤十字病院	柏瀬 義倫	深谷赤十字病院
清水 浩和	熊谷総合病院	登坂 崇史	深谷赤十字病院
新井 偉生	東松山市民病院	坂本 里紗	深谷赤十字病院
横田 文克	秩父市立病院	小島 萌	深谷赤十字病院
高井 太市	小川赤十字病院	萩原 貴之	行田中央総合病院

ご協力メーカー

コンカミノルタヘルスケア株式会社 相川さま

## 第四支部忘年会報告

第四支部 萩原

平成 27 年 11 月 27 日（金）午後 7 時より、熊谷市のキングアンバサダーホテル熊谷にて毎年恒例である第四支部忘年会が開催されました。

当日は会員・賛助会員あわせて約 80 人と多くの方々に参加していただきました。会場の雰囲気は終始賑やかで、多くの施設からの参加や、OBの方から新人の方まで幅広い世代の参加により施設や世代を超えて親睦を深めることができました。

施設紹介では、ユニークなマイクパフォーマンスなどで大いに盛り上がりました。

最後になりますが、参加していただいた会員・賛助会員の皆さまに心よりお礼申し上げます。



### 盛り上がっています



## 施設紹介



本田技研株式会社の皆さま



行田中央総合病院の皆さま



松本クリニックさま



熊谷外科病院さま



小川赤十字病院の皆さま



深谷赤十字病院の皆さま

全ての施設紹介ができない事についてお詫び申し上げます。  
今回紹介されなかった施設は、来年度優先して掲載させていただきます。

## 合同勉強会開催報告

第四支部 萩原・齋藤

平成 27 年 11 月 14 日（土）14：00～ ホテルヘリテージ四季の湯温泉にて  
第二・三・四・六支部合同勉強会「平成 27 年度合同勉強会 in 熊谷」が開催されました。  
内容は以下の通りでした。

支部合同症例検討会

四肢領域……………	第三支部	埼玉医科大学病院	高橋 忍
頭頸部領域……………	第六支部	上尾中央総合病院	金野 元樹
胸部領域……………	第四支部	小川赤十字病院	高井 太市
腹部領域……………	第二支部	イムス三芳総合病院	小田島 明子



演者の皆さま 最高でした!!

講演

「みんなで創ろう！『やりがいのある仕事』～チーム医療と診療放射線技師の役割～」

上尾中央総合病院 佐々木 健



暑いぜ熊谷!! に相応しい講演でした



会場の雰囲気は暑いぜ



質問です!!



当日はあいにくの雨にもかかわらず、総勢 107 人と多くの方々の参加となりました。会場では白熱した質疑応答となり、活気ある勉強会となりました。その後の懇親会でも支部や世代を越えた交流がみられ、有意義な時間となりました。今後も会員の皆さまが参加しやすく、興味ある内容を提供できるよう努めてまいります。最後に実行委員の方々、ご協力いただいたメーカーの方々、大変お疲れさまでした。



乾杯～！



宴会場



注目の新人現る



CT あるあるの歌



実行委員の皆さま 絆が深まりました

## 第五支部

### 第五支部

#### 情報交換会

場所は、春日部市民活動センター〔ふれあいキューブ〕

1月28日 19:00～(予定)

2月25日 19:00～(予定)

3月24日 19:00～(予定)

詳しくは SART の HP などのご案内いたします。

(気軽にご来場していただいてご意見などお伺いできれば幸いです)

皆さまとのお話ができるような企画を考えております。

テーマなど皆さまのご意見をお待ちしています。

ご参加ご協力をお願い致します。

\*\*\*\*\*

五支部理事 矢崎 (i-yazaki@sart.jp)

\*\*\*\*\*

情報交換会以外でもご意見ご提案があれば気軽にご連絡ください

地区の活動にご協力いただける方からのご連絡お待ちしております。

下記でもご案内をしております。

<http://sart-daigoshibu.jimdo.com/>



## 第六支部

埼玉県診療放射線技師会

第六支部

1. 巻頭言 川久保 彰人
2. 平成 27 年度 第 2 回定期講習会報告
3. 彩の国 いきいきフェスティバル報告
4. 平成 27 年度 六支部忘年会報告
5. 平成 27 年度 総会および第 3 回定期講習会案内

### 巻頭言

#### 一步一步

大宮中央総合病院 放射線科

川久保彰人

小学生の頃の家族旅行は山登りでした。子供の私は両親についていくだけで、今考えるととても楽な登山でした。なにしろ登山計画は両親が立ててくれて食事、宿の手配も自分では何もしなかったからです。ただし登頂したときの達成感は今の中に残りました。

思春期になると山に登らなくなりましたが、働き始めて偶然見かけた山岳写真の紅葉風景を見たことがきっかけで登山をまた始めました。今度は自分で計画を立てるのですが簡単には出来ません。綺麗な紅葉を見るための時期はいつなのか？交通手段は何があるのか？何を用意して持っていけばいいのか？など準備にすごく時間をかけました。例えばこの山に登頂して下山するまでに普通の人で 8 時間かかるところ、余裕を持って 10 時間かかる設定にすると、朝 6 時に入山し、お昼前には登頂しなければならないからその途中のある地点には 9 時前後に着いていなければならないなど、各地点の到着時間も細かく設定することができ、入山から下山までのタイムスケジュールが出来上がりました。登山当日、早朝薄暗い中を出発、登り始めると辺りは緑の木しか見えず、久しぶりの登山なので辛いだけでしたが、それでも「あの景色を生で見たい、もう一度登頂したい」という思いで黙々と歩き続けました。4 時間も歩くと綺麗な紅葉が視界に入るようになり、俄然歩くのにも力が入りペースが上がりました。雑誌で見た紅葉風景を現地で見ると想像以上に素晴らしく、夢中でカメラのシャッターを切りました。やがて頂上に着き昼食を食べながら辺りを見ると雄大な景色に時間がたつのを忘れてしまうほど見入ってしまいました。この感動は子供の時よりも大きいものでした。無事、紅葉の最盛期を見る、登頂する、という目標を達成しました。登り始めは見晴らしも悪く、ただ辛いだけで“やめようかな、帰りたいな”とばかり思っていました。でも諦めずに続けられたのは最初に決めた“写真で見た紅葉が見たい”“この山に登頂する”という目標設定をし、それを達成するための細かい目標(各地点の到着時間)を決め、それらの一つずつ達成するために一步一步、地道に歩き続けたからです。

我々が働く医療の分野は日進月歩で、また多くのモダリティーもあり日々学んでいかなければなりません。人それぞれのペースはありますが、それぞれ登る山を決めて(目標設定)、登頂(目標達成)するために事前の準備をしっかりとし、登頂までのタイムスケジュール(短期の目標設定)を決め一步一步登っていけば頂上に着きます。

皆さんも事前の準備や目標設定に時間をかけてみるのはいかがでしょうか？

## 第六支部 第二回定期講習会報告

丸山記念総合病院 石鍋麻実

埼玉県診療放射線技師会第六支部、平成27年度第2回定期講習会が10月22日に丸山記念総合病院にて開催された。今回のテーマは新人教育についてで、45人程度の参加があった。埼玉県立がんセンター、埼玉県立小児医療センター、さいたま赤十字病院、上尾中央総合病院、さいたま北部医療センター、彩の国東大宮メディカルセンター、指扇病院、丸山記念総合病院の8施設で教育を担当している方より、それぞれの施設で行われている新人教育について講演をしていただいた。その後、丸山記念総合病院の芦葉弘志氏を座長としディスカッションが行われた。

教育方法は各施設さまざまであり、教育制度が確立されている施設もあれば模索している印象の施設も見受けられた。その中でも、当直業務を開始できる知識や技術を得ることまでの教育をひと区切りとしていることは各施設に共通している。しかし、入職する新人の人数、施設間での異動があること、人員不足により思うように新人教育に時間を割くことができないことなど、教育に対する悩みはそれぞれの施設の環境により異なる。そのため、統一された新人教育法を見つけ出すことは困難であると感じた。

新人との相性についてどのように考えるかというディスカッションでは、良い面を探し伸ばしてあげることが大切であり相性が良くないと感じる場合には担当者を変えることも躊躇しないとの意見がある一方で、お金をもらって働いている身である以上従うことが社会人であるとの意見も聞かれた。逆に、新人が考える良い教育者とは？との質問に会場にいた新人からは、褒めて伸ばして欲しい・分からない時には一緒に考えてくれるのが良い先輩などの声が聞かれた。ただ知識や技術を教えること学ぶことだけでなく、相手を観察し理解しコミュニケーションをとることが大切である。それによりお互いの成長に繋がり、信頼関係を築くことでより良い教育環境が整う。

私は自分が2年間の教育を受けたことを思い返し、担当してくれた先輩方の苦労を改めて考えさせられた。私はまだ新人教育に携わる機会はないが、もし今後、新人教育を行うことがあるならば自分自身も大きく成長できるのではないかと感じた。今回のように他施設の新人教育について知る機会はないかなかなか、講演してくれた方々も他の施設の教育法に関心を持っており、大変有意義なテーマであったと思う。このたびご講演頂いた8人の方々に、この場をお借りして深く感謝申し上げ結びとする。

## 彩の国いきいきフェスティバル参加報告

飛澤 怜美

平成 27 年 11 月 15 日に埼玉県県民活動総合センターにて『彩の国いきいきフェスティバル』が開催されました。埼玉県診療放射線技師会第六支部では公益活動の一環として毎年参加しております。子供から大人まで幅広い年代の方が来場され賑わいを見せておりました。

第六支部では今回、『放射線関連パネルの展示』『放射線関連クイズ』『骨密度測定』『医療被ばく相談』を企画いたしました。来場者数は放射線関連クイズ 116 人、骨密度測定 184 人、医療被ばく相談 5 人と多くの方にご来場いただきました。

私は骨密度測定の結果説明を主に行っていたのですが、普段骨密度の測定はしても結果説明を行った事がないため、ありきたりな説明しか出来ず説明の難しさを感じました。また骨密度低下の原因や産後の影響など、専門的知識を持って説明する事の重要性を痛感しました。

医療被ばく相談では、CT 検査に関する質問や放射線検査を受ける間隔などについて質問があり、パネルを見ながら相談者へ医療被ばくについての説明を行っていました。

展示場所が 3 階であったため、最初は人出がまばらでしたがスタンプラリーの設置場所になっていたこともあり、スタンプラリーを押しに来たご家族に『お子様がクイズをしている間に骨密度測定はいかがですか』といった声掛けをおこないました。それが功を奏し、多くの方に骨密度測定を体験していただき、あっという間に終了時間を迎えることができました。

お昼休憩の際には、手打ちそばや豚汁、韓国風からあげにチヂミとお腹いっぱい堪能し、短時間ではありましたがお祭りの雰囲気を楽しむことができました。これからもこのような活動を通じ多くの方の健康維持のお手伝いができると思います。最後に第六支部役員の皆さま、今回このような貴重な経験をさせていただきありがとうございます。

## 平成 27 年 六支部忘年会報告

さいたま北部医療センター 竹内 信行

11 月 26 日(木)、コリアンダイニング・クオンズにて第六支部忘年会が開催され、28 人の方が集まりました。普段なかなか食べ慣れないサムギョプサル、サムゲタン鍋などの韓国料理からマッコリなどお酒も充実していて満足のいくメニューでした。また、他施設の若い方々のお話も聞いて勉強にもなりましたし、今後の仕事のモチベーションにもなったと思います。なかなか本音で和気あいあいと話せる機会も少ないのですごく楽しい時間を過ごせました。ぜひ今後も積極的に参加したいと思います。